

「文化財の歴史授業活用方法の研究」

—「ふるさと教育」に視点を置いた小学校での授業実践—

鳥取県埋蔵文化財センター
(併) 県教育委員会小中学校課

1 ふるさと教育の意義

①「ふるさと教育」の充実

○県教育に関する大綱

ふるさと鳥取に愛着と誇りを持ち、郷土を支える人財の育成のため、幼児期から高等学校までの各段階に応じたふるさと教育に取り組みます。

また、史跡、まちなみ、建築物、郷土芸能、伝統芸能、民芸等の様々な郷土の貴重な財産に触れたり、美しい星空をはじめとした豊かな自然に触れる機会を充実させるなど、ふるさとの良さを感じる体験や、地域や地元企業等と連携した地域課題の解決に向けた探究的な学習等を進めます。



身近なところに全国に誇れるすばらし国指定・県指定文化財、遺跡があることを児童・生徒が知り、触れることで「郷土愛の醸成」を図る。

※県外に出ても、誇れる郷土があることが重要！



実施方針

- 「ふるさと教育」に特化しすぎ、各教科の目標とずれてしまわないような実践
- 新たな時間を使って「ふるさと教育」を実施するのではなく、通常授業の中に「ふるさとの魅力」を表す教材を活用
- ふるさとの関する教材は、全国と結びつくものを選び、児童・生徒の関心意欲を高める

教科書の内容

2時 / 7時間

の様子と話をし合

かった米の写

らのくらしの

々はどのよう

かと思いきや

いた人々の

想像図をもと

の様子を調べ

ま

りをしてい

る人がいる

いる人がいる

年前のくらし

とに、人々の

ましよう。

を合わせて米

をさまざまな道



①米づくりの様子(想像図) 板付遺跡における春、夏、秋、冬の農作業の様子です。むらの人々は、指導者を中心に力を合わせて米づくりに取り組まれました。

つかむ

米づくりが始まったころのむらや人々の様子について見てみましょう。

板付遺跡と米づくり 右上の写真は、福岡県福岡市にある板付遺跡です。板付遺跡は、今から約2300年前の遺跡で、上の絵にえがかれているように米づくりが行われていました。西日本を南下するにつれて、米づくりが広がっていったこの時代を、弥生時代といいます。遺跡の水田には、当時の人々の足跡が残っている。

米づくり 米は、ひとつぶから10倍以上の収穫が得られるだけでなく、保存することが可能で、栄養もあるのです。人々の生活の安定に役立ちました。米づくりが広がることにより、社会の様子も大きく変わっていきました。

板付遺跡では、米をつかって食べていたんだね。米づくりに使われた道具には、どんなものがあるのかな。人々は指導者を中心に、協力して作業を行っていた。

縄文時代のくらしとは、どんなところがちがうのかな。米の収穫・貯蔵により安定したくらしになった。

10

授業に役立つ豆知識

むらの特色が出てくる (観察・学習の課題)(3)で活用)

米づくりを行うようになると、それまでの狩りや漁・採集中心のくらしに比べてかなり安定したくらしができるようになった。そのため、大陸から北九州に伝えられた米づくりは各地に広がりを見せ、数百年で東北地方北部(現在の青森県)にまで伝わったことが、遺跡の調査によりわかっている。人々は、水が確保できる米づくりに適した土地にむらをつくり、指導者の指導のもと、米づくり中心のくらしを行うようになった。狩りや漁、採集で食料を得ることは続いていたが、米づくりに手間がかかるようになると、狩りや漁にかける時間が限られてきた。そこで、海辺で漁を中心に行うむらや、山で狩りや木材の切り出しを中心に行うむらなどができ、互いに交流することで、地域ごとにむらの特色が出てきた。



②空から見た板付遺跡

発掘された2300年前のくらしの様子

③弥生土器 このころ使われていた土器は、縄文土器とは異なり、弥生土器といいます。弥生時代(現・東京都文京区弥生)というところで発見されたので、この名前になりました。

④石包丁の使い方 石包丁は、稲の穂をかり取るのに使いました。

⑤米づくりの伝わり 米づくりは、1万年前ほどに中国で始まり、日本に伝わったといわれています。

⑥米づくりに使った道具 米づくりに使ったと考えられるさまざまな道具

⑦石包丁 稲の穂をかり取るのに使いました。

⑧米づくりに使った道具 米づくりに使ったと考えられるさまざまな道具

⑨米づくりに使った道具 米づくりに使ったと考えられるさまざまな道具

⑩米づくりに使った道具 米づくりに使ったと考えられるさまざまな道具

縄文土器に比べて厚さがうすく、かたい。

11

板書例

米づくりが始まったころのむらや人々の様子について見てみましょう。

板付遺跡(約2300年前)

工夫された道具

・みんなで協力 ・指導者

弥生のむらの人々は、指導者を中心に力を合わせて米づくりをし、道具を工夫して、くらしを豊かにした。

資料の活用のしかた

⑤「遺跡から見つかった米」

遺跡から見つかった米の写真を提示し、縄文の人々のくらしにはなかった米の存在に着目させることで、弥生のむらの人々が、米を食べていたことに気づかせたい。

⑦「米づくりの様子(想像図)」

今とは違い、一つ一つの作業が手作業であるため、多くの人々が協力して働いていることに着目させたい。また、中心にいる人物(指導者)が指示を出していることにも気づかせたい。児童用に手持ち資料を準備しておき、ノートに貼らせて、気づいたことを書き込ませるようにすると、多くの気づきが出てくる。

⑧「木製のくわ」

⑧「米づくりの様子(想像図)」で人々が使用している様子と写真を対応させて見ることで、用途に応じて使いやすいように工夫していることが捉えられるようにする。

本時の評価と指導

【観察・資料活用】

板付遺跡の資料から、弥生のむらの人々のくらしの様子を読み取り、ノートにまとめている。

●努力を要する児童への手立て

米づくりに使っている道具や働いている人々の様子に着目させることで、弥生のむらのくらしの様子を読み取れるようにする。

活用例1(実物提示)

【板書計画例】

弥生のむらと弥生時代の暮らし

弥生時代の米づくりの絵をみて気づいたことを発表しよう。

板付遺跡



[気づいたこと]

- 鋤で田を掘っている。(田おこししている。)
- 稲刈りをしている。(石包丁を使っている。)
- 木の杭が打っている。(水路づくりをしている。)
→ 鉄斧を使って木を切り出して使っている。
- リーダーのような人がいる。



国史跡青谷上寺地遺跡で使われていた道具 (約1800年前)

[分かったこと]

- 今と変わらない道具を使っている。
- 縄文時代と比べると道具の種類が増えた。
- いろいろな道具を使って工夫して米づくりをしている。
- リーダーを中心にみんなが協力して米づくりをしている。

※本物の弥生土器・石包丁を展示。(借用機関：鳥取県埋蔵文化財センター)

小学校の第6学年社会科教科書



むらからくにへ 米づくりが広がっていくと、人々の生活の様子も大きく変わっていきました。佐賀県吉野ヶ里町にある吉野ヶ里遺跡は、1～3世紀ごろの弥生時代後期の遺跡で、集落のまわりを大きな二重の堀やさくで囲んでいます。

弥生時代には、倉庫にたくわえられた食料や種もみ、田や用水、鉄の道具などをめぐって、むらとむらとの間で争いが起こるようになりました。

やがてむらの指導者は、強い力をもってむらを支配する豪族となっていきました。豪族の中には、まわりのむらを従えてくにつくり、王とよばれる人も現れました。

また、米づくりが広がったころ、朝鮮半島から日本列島へわたってきて住みつく渡来人が大勢いました。渡来人の中には、建築や土木工事、焼き物などの技術を身につけた人々があり、進んだ技術や文化を日本にもたらしました。

吉野ヶ里遺跡からは、渡来人が伝えたとと思われる鉄器・青銅器、麻や絹でつくった布、南方の貝でつくったうで輪などが出土しています。それらの出土品から中国や沖縄、出雲地方(島根県)などと交易をしていたこともわかっています。

各地の王や豪族たちは、渡来人の技術や文化を積極的に取り入れ、くにづくりに役立てました。

7 銅鐸 祭りに使われた道具で、島根県で見られたものと同じ銅型でつくられたことが判明しました。

8 復元された巴形の銅器

9 中国製の貨幣

10 銅剣

11 銅かざりの管玉

12 中国の古い時代の本(部分要約)に書かれている卑弥呼 卑弥呼が治めていたくには邪馬台国とよばれ、30ほどのくにを従えたとされています。

倭(日本)の国の王は、もとは男性が務めた。従えていくにぐにが争いを起こし、戦いが続いたので、相談して、卑弥呼という女性を王に立てた。卑弥呼は、よくうらないをして、人々をひきつけるふしぎな力をもっていた。

女王になってからは、ほとんど人に会わず、女の召使い1000人に、身のまわりの世話をさせていた。宮殿、やぐら、さくのまわりは、いつも兵士が守っていた。

また、卑弥呼は、中国に使いを送り、おくり物をしたので、中国の皇帝は、そのお返しに卑弥呼に倭王の称号をあたえ、織物や銅の鏡などを授けた。

ことば

渡来人 渡来人は、中国や朝鮮半島などから日本にわたり、養蚕・はた織り・鍛冶などの技術や筆・紙・酒などをつくる方法を新たに日本に伝えました。漢字や仏教を伝えたのも渡来人です。

活用例2(青谷上寺地遺跡)

【板書計画例】

むらからくにへ



- ・海に舟がたくさんある。
- ・竪穴住居（家）がたくさんある。
- ・高い建物がある。
- ・黄緑の所は水田かな？



舟



高い建物



水田

弥生時代の青谷上寺地遺跡の人々の暮らしを予想しよう。

①舟で漁をしていた。



結合式ヤス

③すばらしい木製品



花弁高坏

②お米を作っていた。



鍬（耕す道具）

④交流を示すもの



貨幣（貨泉）



大陸製の金属製品



勾玉・管玉

[分かったこと]

- ・今とかわらないような道具で漁をしたり、お米を作ったりしていた。
- ・広い範囲で各地と交流していた。

ムラを発展させる努力

※本物の弥生土器等の出土品を用意する。（借用機関：鳥取県埋蔵文化財センター）

実践例：

「ふるさと教育」と社会科学習・総合的な学習の連携

身近な文化財、遺跡を学習に取り入れることにより、児童・生徒は資料集等の紙面だけではなく、近所の史跡・遺跡と出土品などの実際の現地、実物の資料を体感することができ、学習に向ける関心意欲がアップする。



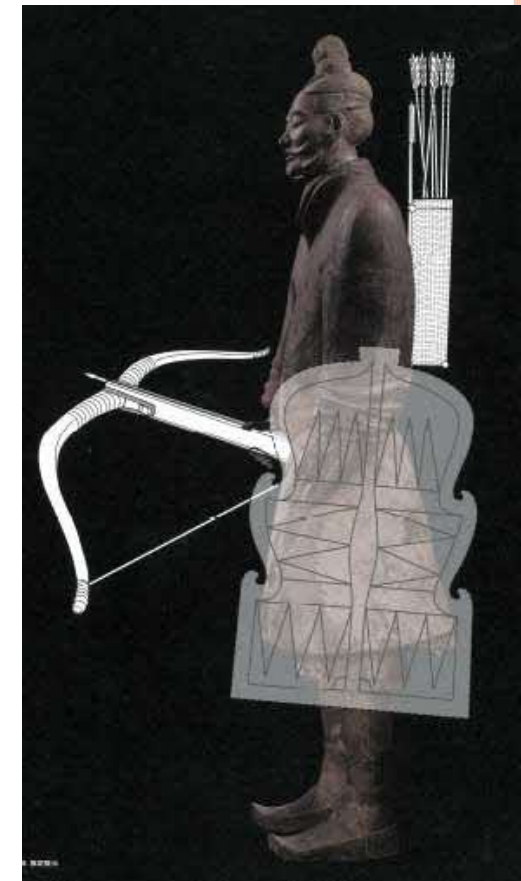
本物の魅力

- ・ 児童生徒にとって身近な存在 ← 話題に触れやすい
- ・ 関係する資料を調べやすい ← 実際に現地に行くことも可能
実際に資料を見て触れることも可能
実際に話を聞くことも可能



大兵馬俑展 展示の本物は8体だけ

でも



- 私と同じくらいの身長にびっくり！
- 黒いのは漆、その上に色がつけてあった！
- 手の握り方などから何を持っていたかが分かる！

本物の力



歴史学習の導入に効果的、また、地域の歴史が全国の歴史に結びつく機会

「主体的学び」・「対話的学び」・「深い学び」に結びつく学習に。

※副産物として地域（近所）の歴史は親子の会話も誘導



埋蔵文化財センターの今年度の取組

○学校での歴史授業実施

〔縄文時代～古墳時代のまとめ〕

- ・地域の遺跡、出土品を使った縄文、弥生、古墳時代のまとめ学習
小学校：2授業

〔戦国時代の導入〕

- ・地域の中世城館を教材にした戦国時代の学習
小学校：7授業

〔奈良時代の地方社会の学習〕

- ・奈良時代の地方社会について青谷横木遺跡等の遺構、出土品を教材にした学習
高等学校：1授業

○学校での「総合的な学習の時間」授業実施

〔湖山池の学習の導入〕

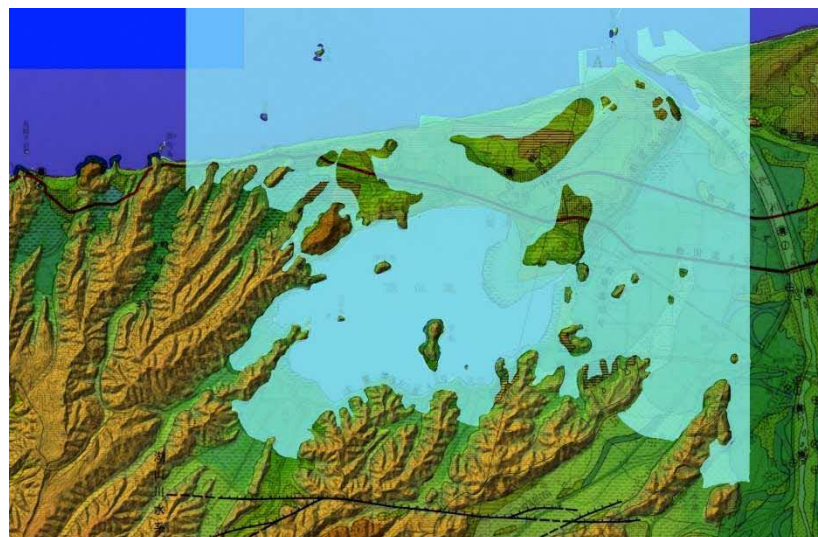
- ・総合的な学習の時間での湖山池の歴史についての学習
小学校：1授業



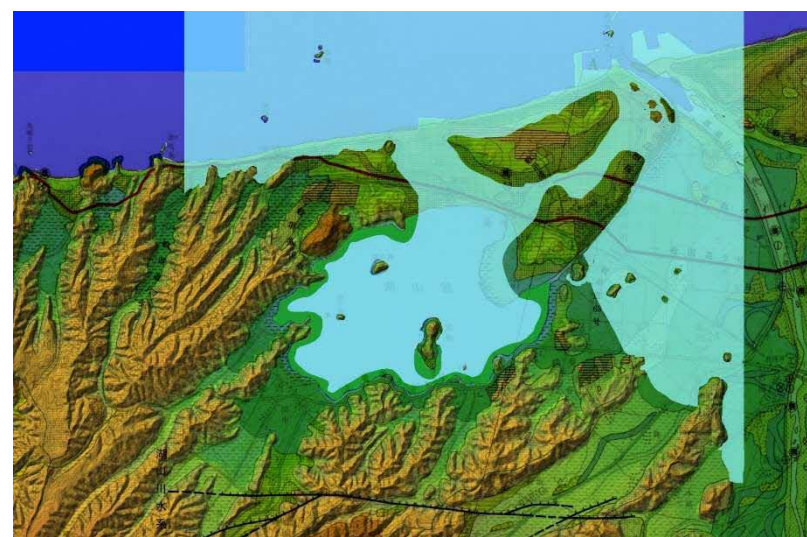
学校での歴史授業実施



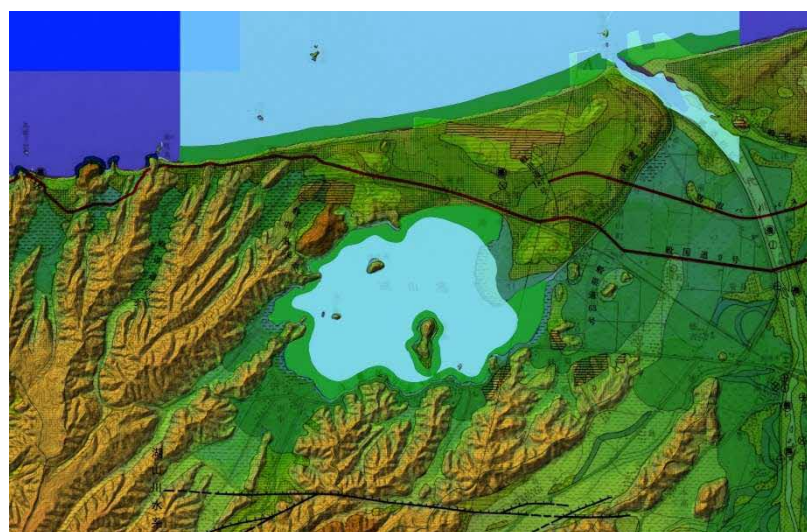
湖山池の変遷



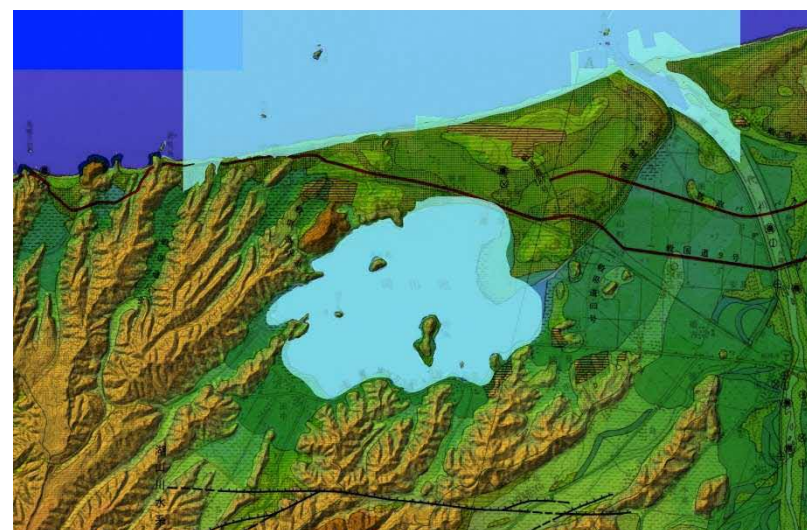
縄文時代前期頃



縄文時代後期頃



弥生時代頃



古墳時代頃



4年生の総合的な学習の時間



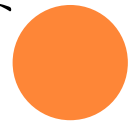
授業後の感想

○授業後の児童・生徒の地域への思い(主なものを記載)

- ・身近なところに遺跡(お城も含む)があって驚いた。また、自分たちの地域が歴史あるところということが分かった。
- ・すごい遺跡がある地域であることが分かり、誇りに思う。
- ・自分たちの地域の歴史が教科書に出てくる出来事と関係していたことがすごいと思った。

○先生達の感想

- ・児童の関心意欲がいつもより高かった。また、大変喜んでいました。
- ・本物の出土品に触れる貴重な経験を児童がすることができ、大変よかった。
- ・授業内容に合わせて、専門的な内容も盛り込んであり、大変よかった。
- ・自分でこの内容の授業準備をすると大変な労力がかかるが、それがない上、学習効果も高い。



授業後の児童のアンケート結果

